

＝宮城教育大学＝英語教育フォーラムを開催

宮城教育大学附属・小学校英語教育研究センターでは、12月3日（土）「小学校英語活動の充実と今後の課題」とのタイトルで英語教育フォーラムを開催しました。本フォーラムは、今年度から必修化された小学校外国語活動の充実と小・中・高等学校と繋がる英語教育のあり方、そして今後の課題について、講演やパネルディスカッションを通して考える機会とするために開催されました。

午前の基調講演Ⅰでは、文科省初等中等教育局国際教育課 渡邊外国語教育推進室長から「小中高全体を見通した英語教育の改善と充実」と題した講演が行われ、日本の英語教育の現状や課題と施策、小中高と連携した英語教育のあり方などが分かりやすく説明されました。

午後の基調講演Ⅱでは、宮城教育大学附属・小学校英語教育研究センター長の板垣教授から「英語コミュニケーション能力の『素地』と『基礎』」と題して講演が行われ、『素地』と『基礎』とは何か、小中高での英語教育の目標、第二言語習得理論など多岐にわたって説明されました。

また、パネルディスカッションは、渡邊室長をはじめ、県教委 佐々木指導主事、仙台市小学校教育研究会外国語活動部会 小野部会長、リース センター兼務教員をパネリストとして、本質的な問題から、宮城県の現状や現場での具体的な指導法等についての発表と質疑応答が行われ、研究と実践の交流の場として意義深いものとなりました。

当日は、約130名の来場と予想を上回るものがあり、これからの英語教育への不安と関心の高さが窺われました。参加者からは、「県全体のレベルが上がるよう年2～3回フォーラムを開催してほしい」「様々な立場のお話を聞いて大変有意義な時間でした」「センターと現場とのネットワークの構築をしてほしい」等々たくさんの意見が寄せられました。

基調講演Ⅰ 文科省初等中等教育局国際教育課 渡邊外国語教育推進室長の講演の様子



基調講演Ⅱ 小学校英語教育研究センター長・宮城教育大学教職大学院教授 板垣教授の講演の様子



パネルディスカッション 小学校英語教育研究センター兼務教員・宮城教育大学講師 リース・エイドリアン氏の講演の様子

